



講演：明治日本のサムライとコスプレ Claude ESTÈBE クロード・エステーブ

日本の19世紀に於いて『侍・サムライ』は人気のある写真のテーマとして数多く撮影されているが、明治時代に入り武士階級が崩壊してから、実際には正真正銘の武士の写真というものは非常に稀にしか存在しない。それらの写真の多くは、モデルにそれなりの衣装を着せ、本物に近いものから一目でマガイモノと分かるものまで程度は様々ではあるが、それなりの趣向を凝らして演出されたツクリモノの肖像写真である。ライムント・フォン・シュティルフリート男爵 (Raimund von Stillfried) や日下部 金兵衛のような写真家もそれらの写真に『侍』『大名』といったタイトルをつけている。そのため、この云わば初期の「コスプレ」に欧米の研究者達は、今でもよく惑わされることがある。

6月4日(木) 16:20～

和泉キャンパス図書館1階、図書館ホールにて

使用言語：英語（日本語字幕つきスライドショー有）

Samurais & cosplay in Meiji Japan lecture by Claude Estèbe

Samurais were a popular subject in 19th century Japan photography but as the samurais' class disappeared at the very beginning of Meiji period real samurais' portraits were indeed quite rare. Many photographs were staged with models and costumes more or less adequate, creating a gallery of portraits ranging from fastidiously researched costumes to mere fantasy. Photographers like Raimund von Stillfried or Kusakabe Kimbei even shot kabuki actors in stage costumes and labeled them "samurais" or "daimyo". Even now, Western scholars are often deceived by these kinds of early "cosplay".

フランス国立東洋語文化大学 (INALCO)
日本学博士。同大学で講師を務める傍ら、
写真史の専門分野で国際的活動を展開。
パリのギメ美術館、日本古写真鑑定顧問。
2015年4月に京都で開催された festival
Kyotographie ではキュレーターとして来日。
写真展 Uchimata をはじめ、写真家としても
高い評価を得ている。

